



特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター ニュースレター

# KFC News

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

2022.1.17

No. 166

法人本部 〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10 アスタクエスタ北棟 502

TEL: 078-612-2402 FAX: 078-612-3052 E-mail kfc@social-b.net

デイサービスセンター ハナの会 TEL / FAX: 078-612-2408

グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ TEL: 078-798-5475・4 FAX: 078-798-5476

ハナ介護サービス TEL: (居宅) 078-646-8671 (訪問) 078-646-8670 FAX: 078-612-3052

ふたば国際プラザ TEL: 078-747-0280 FAX: 078-747-0290

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

セヘ ポク マニ パドゥプシヨ (新年の福を たくさんうけとってください)。

昨年は、2年越しのコロナウイルス禍が世界を席卷する中、5月にはKFCにおいても利用者、スタッフあわせて7人がウイルスに感染し、施設の一時閉鎖と消毒、感染者のフォローに忙殺されるなど厳しい事態に見舞われました。しかしその後は、たくさんの支えにより感染の再発や拡大もなく、感染予防に真摯に取り組みながら日常を取り戻す努力を積み重ね、既存事業の取り組みを進めてきました。

また厳しい状況の中でも、コロナ禍で生活に影響を受けている子どものいる留学生家族らへの食品・物資の提供や小学校入学前の外国ルーツの子ども向けのプレスクール事業の拡大、街のにぎわいづくり事業である「KOBELANTAN縁日2021」の規模を拡大しての開催など新たな事業にも取り組みました。

昨年は、切れ目なく続く不安の中に置かれているような日々でしたが、KFCとしてできること、なすべきことには取り組んだ年だったと思えます。それも支えていただいた方々のおかげです。改めて感謝もうしあげます。まったくのこじつけになりますが、去年の漢字は、「金」に決まったということで私の姓と一緒に。今年は、きっといいことの多い年になりそうです。少し目線をあげて進もうと思います。

(理事長 金宣吉 (きむそんぎる))

## ◆理事からのご挨拶

皆さん、あけましておめでとうございます。人と人とのつながりをこわし続けてきた「コロナ禍」が、やっと落ち着いたかと思っていたら、「オミクロン変種株」の脅威が迫ってきております。本当につらい日々ですが、こんな時ほどKFCの地道な活動が大切だと思います。

今まで以上に、知恵と力を合わせながら希望をもって前向きに進んでいきましょう。

(副理事長 李圭燮 (いきゅそふ))

あけまして、おめでとうございます。

昨年10月、KFC主催のランタン縁日に子連れで参加しました。ふたば学舎の子ども向けゲームでは、割りばし製のゴム鉄砲をひさしぶりに見て昔を思い出すとともに、縁日のにぎわいに驚きました。KFCとふたば学舎が地域活動にも貢献していることを改めて感じました。

今は子育てをしながらなので理事会にもなかなか参加できませんが、自分もKFCの一員としてできることをしたいと思います。今年もよろしく願います。(片田 孫 朝日)

明けましておめでとうございます。今年は「下り坂49」から、ついに人生100年の時代の折り返し地点へ。大学教員になって20年になりますが、学生との年齢差が毎年確実に開く中、彼らとの距離感や彼らへの思い、願いが少し変わってきました。変わらないのは、若い人たちには希望が見出せることです。一方で、若い人たちが希望のもてる社会を、私たちは示しているか…それを今年は一層自分に問いたいと思います。今年もよろしく願います！(野崎 志帆)

パンデミックはまだ収束していませんが、2022年はこの2年間の経験をふまえて、国家・社会のさまざまなレベルで物事の再定義が必要な一年になると思います。分断は各方面で深刻ですが、新しい未来を切り開く若い人々の動きに対しては敏感でありたいと思います。今年もよろしく願います。

(樋口 大祐)

新年 明けましておめでとうございます。

今年は寅年。私の干支です。私の人生で最後の干支になるかと思っています。

昨年はコロナ禍の中で、貴重な体験をしました。

一つには、普段付き合っている日本語学校から、「留学生のコロナワクチン接種、どうしたら出来るでしょうか」と言う相談。松浦先生に相談すると、「僕とこでやってあげようか。その代わりに、山根さん手伝ってくれる？」学校の先生が問診表と接種時間の振り分けを行う。当日は、送迎をして時間通りに学生を引率。私ともう一人の看護師が、二か所でワクチン接種を行う。50名余りの学生は半日で終了、これを2回行いました。学校側からはとっても感謝されました。

二つ目は、京都精華大学のワクチン接種に参加してきました。これは以前一緒に働いていた松尾先生がサコ学長の知り合いという事でオファーがあり、サコ学長(アフリカ出身で、日本で初めての外国人の学長)に好奇心あり松尾組と称して、巽さん、相原さんにも声をかけ、参加してきました。一緒に写真も撮りました。

最後に、相原さんから「助成金の申請をしたら通ってしまったので、山根さん、はれが主体で事例をまとめていきましょう」と言うことで、在留外国人の訪問看護に関わっての困難さ課題を把握するというテーマで、事例検討と関わっている多職種のインタビューに取り組み、今年も製本の予定です。

ズームが多かった一年間でしたが、今年は、ズームに慣れたいと思います。(山根 香代子)

あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が複数回にわたり出され、感染の拡大が止まらない事態が続いていました。当事業所でもクラスターが発生し、対応に追われました。今年度も感染の終息が見込めない状況が続きます。特に外国人に対する様々な偏見や流言飛語も蔓延しています。このような状況であるからこそ、相互理解と協力が不可欠です。これからも定住外国人の権利擁護のために、KFCの活動に貢献できるようがんばります。今年もよろしく願います。(吉井 正明)

## 日本語プロジェクト

## ◆ええとこながた～多文化を楽しもう

11月28日(日)、ふたば学舎で「まちの文化祭」が行われました。ふたば国際プラザでは地域に住む外国にルーツをもつ人々の国や地域について学んだり交流したりする催しを行いました。展示コーナーでは、ベトナムやミャンマーなどアジア各国の民族衣装や、KFCで勉強している外国にルーツをもつ子どもたちが自分たちのルーツ国・地域の食文化について紹介するために作ったポスター、ふたば国際プラザの活動風景写真などを展示し、270名の来館者がありました。世界の人と話そうでは、日本語を学習している方々が国や文化についてのポスターを作り、それをもとに発表を行いました。30名の来館者に対しベトナムと中国の方合わせて計4名が発表を行いました。学習者有志の方が司会も務めて下さいました。

KFC日本語プロジェクトの学習者、支援者は、屋台で焼き芋、世界のお菓子を販売とバザーに出店しました。バザーでは古本も日本語学習関連書籍を中心に出品。わいわい楽しく過ごすことができました。下記は参加してくれた後藤さんの感想です。

こんにちは。日本語ボランティアとして今年9月から参加させていただいている後藤ひなこです。私は今回、11月28日に行われた「ええとこながた」でお手伝いをさせていただきました。

私がボランティアを始めたのは最近ですし、普段の日本語支援ではzoomを使っています。そのため、普段の時間ではペアの方と楽しく話していますが、自分のパートナー以外の学習者の方や他のボランティアの方とお会いするのは初めての機会でした。初めて参加した私を温かく迎えて下さり、普段のボランティア活動などについてお話を聞いたこともありがたかったです。

私にとってこの2年間は、大学の授業もオンライン化が進み、人との出会いも少なくなり、海外旅行もできない状態でした。今回のお祭りで、初めて見る海外のお菓子や、同じ日本語ボランティアとして長く活動されている方、初めて出会う学習者の方と出会うことができたとても貴重な機会でした。ありがとうございました。  
(後藤 ひなこ)

## 日本語プロジェクト

### ◆小さな一歩

外国人に日本語を教える先生になりたいと勉強を始めたのが25年前。そのころはキラキラした夢を追いかけて大学で必死に勉強をした覚えがあります。そこから色々な現実が見えだし、私の日本語教師になる夢はすこしずつ後ずさりしてしまい、他業種で就職してその資格の存在すら忘れかけていた時でした。

コロナでステイホームをしている間にふと自分の夢を思い出し改めて必死に勉強しなおすことができたのが2020年の夏。その後試験に合格したものなのなんの実績もない私。すこしでも誰かのお役に立てられたらと、ふたば国際プラザに問い合わせをし、マッチングがかない、2021年4月日本語ボランティアとして参加させていただくことになりました。

学習者さんは韓国から来られた高齢者施設で働き日本語をある程度マスターした方。生活にはさほど不便はなさそうですが、実際に仕事で使う敬語を主に勉強したいとのことでした。日本語を初心者に教えるのも難しいですが、ある程度日本語が理解できる方には、日本人でもなんとなく使い分けている微妙な言葉の違いの説明がまあ難しい。「先生、承知いたしました。と了解しましたってどう使い分けたらいいですか?」「ご連絡させていただきます、っていいにくいからご連絡しますでもいいのでは?」など「うーん、確かにそうですね」と一緒に悩むこともしばしば。

毎回毎日が私にとっても発見の連続の日本語学習

支援。今はおひとりの方と週に1度とマイペースにやらせていただいておりますが、少しずついろんな学習者さんにお会いして日本語を介しながら心を通わせられたらと夢見ています。

(日本語ボランティア 宮瀬 浩子)

### ◆日本語ボランティア講座

(9月12日～10月31日 全8回)

ふたば国際プラザで日本語ボランティア養成講座を行い、17人が参加しました。日本語ボランティアは狭義に捉えると日本語を教える個人活動ですが、広義では、外国人住民の隣に寄り添い、日本語学習支援を通じて、相互扶助の関係を築く社会活動です。日本語教室は、日本での生活を安心安全に暮らす第一歩目の居場所であり、また身近な習慣や文化背景の違いから来る疑問を話し合える場でもあります。講座の内容は、多文化共生、神戸に住む外国人の歴史と現状、日本語教育体制、ライフステージ毎に必要な日本語、韓国語で韓国語の授業を受ける、日本語教育の基礎知識、ふたば国際プラザについて等、話を聞いたり一緒に話し合ったりしました。「発表することが多く緊張した、しんどかった」という感想から「色々な視点から考えて面白かった」「2時間があっという間に過ぎた」という感想を頂きました。

## 多文化子ども共育センター

## ◆神視保育園でのプレスクールがはじまりました

プレスクールでは、外国にルーツをもつ子どもたちが、小学校入学前に、学校で使う日本語や学校生活のルールを学びます。神視保育園では、今年から開校しました。期間は、11月から3月まで、毎週火曜日の午後、45分2コマで授業を行っています。

ベトナム・中国などのルーツをもつ5人の元気な園児が、はりきって教室にやってきました。みな、日本生まれ、日本育ちです。一見、何も問題がないように見えますが、語彙チェックをするなかで、日常生活で使うものの名前が出てこなかったり、発音が不明瞭だったりすることが分かりました。保育園では、日本語を使っていますが、家庭では母語を使っていることが多少影響していると考えられます。

プレスクールでは、学校のルール（あいさつ・姿勢・返事のしかた）日本語（ひらがなの読み書き・語彙）、かず（数字・数の意味・順番）を中心に学習を進めています。絵本の読み聞かせやゲーム、工作などを取り入れ、子どもたちが楽しく学習に取り組めるようにしています。また、外国にルーツをもつ子どもたちの日本語や文化の違いによる課題にも配慮し、授業内容を考えています。

語彙カードの学習では、学校で使うものを中心に、名前だけでなく、どういう時に使うか、またその時どのように言うのかなどを学習します。その中で、語彙を増やしたり、また発音を正したりしていきます。「傘をさす」「ごはんをよそう」などのコロケーションにも気を付けるようにしています。

また、もののやりとりや貸し借りの場面などでは、国の文化や慣習の違いが出る場合があります。上手にコミュニケーションがとれるように簡単な練習をします。

学校では、毎日宿題が出されます。毎週、自宅に課題を持ち帰り、課題を終えて持ってくるという習慣がつくようにしています。また、保護者には、日本の

学校や子どもたちの学習・様子について知っていただくために、母語の資料ややさしい日本語を使って書かれたプリントを配布しています。

私は、神戸市の小学校で25年教師をしていました。年々外国人児童が増え、その国籍も様々でした。学校現場では、外国にルーツをもつ子どもたちが学習についていけなかったり、上手にコミュニケーションが取れずに友達とトラブルになったりする場面がよく見られました。生活言語ができていても、学習場面の言葉や抽象的な言葉の理解には、時間がかかります。また、文化や習慣の違いが分からず、誤解が生まれることもありました。外国にルーツを持つ子どもたちの支援の手はまだ足りないと肌で感じていました。このプレスクールの活動が、子どもたちや保護者が入学への期待をもち、スムーズな学校生活のスタートを切る一助となればと思っています。

（暁 英子）

## （ある日の活動）

活動	内 容
はじまり	あいさつ・元気チェック・日付の確認・宿題回収
活動①	ひらがなのおけいこ（鉛筆の持ち方・姿勢・丁寧にひらがなをなぞる）
活動②	語彙カード（学校で使うもの・野菜・動物・対義語・コロケーションなど） ※コロケーション:「傘をさす」「ごはんをよそう」など、よく使われる語の組み合わせ
	トイレ休憩
活動③	絵本読み聞かせ・ゲーム（ルール・やりとりの仕方）
活動④	かず（数字・数え方・順番）
	プリントをファイルに閉じる・宿題のやり方説明・出欠カードシール貼り
おわり	あいさつ

## デイサービスセンターハナの会

### ◆スタッフインタビュー

Q 1) 陳野 ガさんは、デイサービスセンターハナの会のスタッフになって何年経ちますか？

ガ) 9年目に入りました。あっという間ですね。知らないうちに時間が経ちました。

Q 2) 働くことになったきっかけは何ですか？

ガ) 当時、病気をして入院をしたあとで、仕事を辞めて自宅にいました。知り合いだった福山さんから、ハナの会でボランティアをしないかと誘われて行きました。そして、1週間もしないうちに理事長から「スタッフとして働かないか？ガさんなら出来るよ」と誘われたので、できるかどうか分からないけど、「一度、やってみよう」と午前中勤務からはじめました。

そのあと、ヘルパー2級講座の受講を勧められましたが、なかなか受講する気になれませんでした。しばらくたって、家の近くでヘルパー2級講座を開催するところがあったので、受講してヘルパー2級を取得しました。

また、私の両親もベトナムから日本に来ていたので、両親も年を取っていく中で介護の仕事や勉強を通じて両親にできることが何かあるのではないかとこの思いもありました。

Q 3) どんなところにやり甲斐を感じますか？

ガ) 働くこと自体は、好きです。ゴム屋(靴屋)でも12年ほど働いていましたし、子どもが幼いころは、自宅で靴の内職をずっとしていました。

ハナの会は、「自分の家みたい」だな、と思います。忙しいときは、目が回りますが(笑)

Q 4) 難しいと思うところは、どんなところですか？

ガ) 利用者と触れ合う中で、難しさを感じることがあります。例えば、認知症の利用者に対してその人の気

分にムラがあって、どのように接したらいいのか、分からない時があったりします。また、自分の体力や介助する技術の限界を感じるがあります。

Q 5) ハナの会に勤めていて、これまでの印象的な出来事と言えば？

ガ) 外出レクリエーションで行った淡路島への遠足です。車中で歌いながら行って、美味しいごはんを食べたり、とても楽しかったです。

Q 6) ところで、いつも明るいガさん、普段から心がけていることがありますか？

ガ) 楽しいのがいいですね。おもしろいといい。

Q 7) 最後に一言、お願いします。

ガ) 特にベトナム人の利用者が集まる木曜をもっと楽しくしたいです。この日はベトナム人同士がベトナム語で大きな声で話をしたり、レクリエーションをしながら楽しく過ごすことはとても大切なことです。なぜなら、自宅に帰ったらベトナム語を話さない家族がいたり、独り暮らしだと、それができないからです。ハナの会にくることで、自分を取り戻すことができます。

また、ハナの会の利用者は、独り暮らしの人が多いです。デイサービスだけでなく、その人の暮らしと一緒に支えていきたいという気持ちがあります。

\*インタビューを終えて。

ガさんは、ベトナムのブンタウ出身で、40年前に来日しました。また、両親もハナの会を利用してくださり、ベトナム人の利用者の言葉のサポートだけでなく、精神的にも大きな支えになっていると思います。ガさんの楽しそうに笑う姿をみて、国籍を問わず多くの利用者が頼りにし、親しみを持っています。

(鄭秀珠(ちよんすじゅ))

## グループホーム ハナ 小規模多機能型居宅介護 ハナ

### ◆グループホームでの面会再開

2020年は、コロナウイルスの感染拡大の為に自粛した正月帰省や会食なども、感染者数の減少から2021年末は実施された方も多かったのではないのでしょうか？その矢先に、オミクロン株の出現が、世界を騒がせています。どこまで、この緊張感は続くのでしょうか。新年には、おそらく、3回目のワクチン接種が本格化すると思われませんが、早く、当たり前の日常を取り戻したいと願っています。

そんな中ですが、ハナでは、2021年11月から、週末限定で面会を再開しました。しかし、1回10分、面会は1度に2人までで、小規模多機能のフロアの1室を利用してというスタイルです。間にパーティーがあるため、触れ合ったりできず、耳が遠い利用者様には家族様のお話が聞き取りにくいなど、マイナス面が多いです。また、家族様の中には、半年以上会っていない為、自分の顔を忘れていないかと心配される方もいました。以前のように、時間や場所の制約もなく、利用者様の自室でゆっくり話したり、触れ合ったりといった暖かな時間を過ごしてもらえないのは、施設としても非常に心苦しく、大変申し訳ないですが、皆様施設の状況をご理解いただき、ご協力をいただいている状況です。

オンライン面会も行ってきましたが、やはり、顔と顔を合わせることは、触れ合えなくても、利用者様の表情が全く違います。会う前から、面会に来てくれるというだけで、泣き出す方もいらっしゃいました。今後、感染状況やワクチン接種の進捗状況、国や自治体の方針にもよりますが、面会のスタイルを快適なものにできたらと思います。

当たり前に自室で面会したり、一緒に外出や外食をしたり、それだけでなく、何気ない会話の中で触れ合って笑いあえるなど、暖かな日々が早く帰ってくることを願っています。  
(森 佳緒里)

## KFC帰国者新長田交流会

### ◆帰国者交流会の近況について

コロナの感染状況が少し落ち着いた10月以降は久しぶりに来てくださる帰国者の方々が多くなり、10名以上で活動することが増えました(コロナ前の参加者数は30~40人でした)。姫路や加古川、明石など遠方からも足を運んで、再会を喜びながら会話をしたり、一緒に広場踊りや太極拳をしたりする姿が見られました。中にはほぼ2年ぶりに来られる方もおられ、活気が感じられる交流会になってきました。車いすや杖で来られる方も踊りや体操の時は楽しそうに身体を動かしておられます。

しばらくお顔を見ないうちに認知症が進んだり、足腰が弱られたりしている様子もあります。どのような交流会にしていけば良いか、どのような支援が必要か、交流会運営については考えさせられることが多いです。そして、コロナ禍もまだ予断を許さない中なので、様子を見ながらやっていかなければならないのは変わりません。

先日、今の交流会について思うことや今後の交流会で期待されることを皆さんに質問しました。すると、コロナ禍がまだ終わっていないので他の人を誘うのはまだ早いと考えている声や、今までのように、健康や介護に関する内容を日本語教室で引き続き扱ってほしいという声などいろいろと聞かれました。来られている方の声と、最近来られていない方の声も連絡して聞きながら、安心して自己表現して活動できる居場所としてどのような展開ができるか検討していきます。  
(大石 貴之)

## ふたば国際プラザ

## ◆相互理解講座～世界の食文化～を開催しました。

近年は近所や学校、プライベートなどでもムスリム（イスラム教徒）の方々やハラフードに接することがよくあります。しかし、未だにハラフードがどんなものか分からず、知る機会もありませんでした。食べ物は、人の生活に大きく関わり、身近に住む人同士がお互いに食文化や背景を理解することが大切です。

10月16日にふたば国際プラザで行われた今回の講座は、Wala Mahdy（神戸大学医学部附属病院 博士課程）さんからハラフードについてご紹介頂きました。ハラ（Halal）は、イスラム教の規律「シャリア」により許容されたもので、ハラム（Haram）はその反対の意味です。例えば、豚肉や動物の血などがハラムです。しかし、ハラムとして禁じられたものでも、他に食べ物が無い時や知らずに食べた時などは問題にならず、思うよりも柔軟な規律となっています。また、豚肉以外でも、叩くなど屠畜の方法が望ましくない場合はハラムになり、ハラフードではありません。そのため、日本に住む多くのムスリムはハラとハラムを区別した食生活をしています。

講座はオンラインとオフラインで同時に行われ、合わせて20名の方にご参加頂きました。また、「日本に住むムスリムで、近くからハラ肉が手に入らないとどうするのか」という質問がありましたが、

ほとんどはオンラインで購入するそうです。そして「お祈りしたかは関係ないのか」に対しては、屠畜や食べる時にも神の名前は言うが、そのお祈りとハラフードとの関係はなく、屠畜方法が最も重要で、もし他の宗教の人がお祈りせずに屠畜した肉でも、イスラム式の屠畜方法であれば食べることができそうです。

参加者の方々からは、「屠畜の仕方など話しにくいことだったと思いますが、詳しく聞けてよかったです」、また「食べ物の管理が非常に厳密であり（ムスリムではない）日本人と多いに違うことがわかりました」などの感想がありました。ハラフードを食べることは、ムスリムではなくても良いということで、私もハラフードを食べてみたいと思いました。（李乗漢（いすんはん））

講座と同時に、各地の食文化に関するポスター展示を行いました。KFCの学習支援に来ている外国にルーツをもつ子どもたちがグループに分かれ、ベトナム、マレーシア、フィリピン、中国の食文化に関するポスターを作りました。

## ◆秋季 多文化ひろめ隊派遣を行いました。

外国にルーツをもつ方々に各国・地域の紹介を行う講師「多文化ひろめ隊」となって頂き市内の児童館・学童保育コーナーに派遣する国際理解事業の秋季派遣を11月に行いました。今回は神戸市内の7館に対し、留学生や子育てをしている方、会社を営んでいる方など14名(8か国・地域)の講師を派遣しま

した。

派遣に先立つ形で、ふたば国際プラザで「多文化ひろめ隊養成講座」を行い、小学生の子どもに対してどのような発表の仕方をすれば良いのか研修を行いました。具体的には難しい語彙を使わない、漢字にはふりがなをふるといった基本的なことから、遊びや母

語でのあいさつ、写真や動画を取り入れるなどの工夫をすると子どもたちが興味を持ってくれるといったアドバイスをを行いました。また、以前にも児童館に行ったことのある人には体験を共有してもらいました。実際に使用したパワーポイントの資料をもとにうまくいった点やいかなかった点を発表しあい、皆で参考にしました。その後、前回の事業実施時に児童館から頂いたフィードバックも共有し、講師が感じたことと、児童館の方が感じていたこととの共通点や違うところも確認しました。

今回11月に実施した秋事業においても、児童館からいろいろなフィードバックを頂きました。「子どもたちが興味津々で、くぎ付けになって聞いていました」「行事の最初から最後まで講師の方が明るく楽しい雰囲気づくりをしてくださった」「講師が子どもたちの興味を引き出すために声の大きさや表情を工夫したり、一人ひとりの頑張りをほめて下さったりしたのが伝わりました」などの声がありました。一方で、講師がうまく話すことができたと思っても、児童館から見れば「説明が長すぎて子どもが座ってられなくなった」や「人口や面積の話は低学年には分からない」などの指摘や「打ち合わせを欠席した講師との意思疎通がうまくいかなかった」「道に迷って

講師が遅刻してしまった」などの話もありました。

事業の実施にあたっては発表そのものはもちろん、講師と児童館の事前のコミュニケーションも重要な一部分です。例えば留学生など若い講師であれば、遅刻や打ち合わせの無断欠席など反省点もありますが、そこから学んで次に活かして欲しいと思います。また児童館側でも歓迎の意を表すために国旗を飾りたいという話に対して、講師のルーツによってはセンシティブな部分もあるということをお話しさせて頂くなどの事例もありました。

全体的に見れば応募する児童館は多くなっており、多文化理解に関心が高まっています。また児童館に来ている子どもの中にも外国にルーツをもつ子どもがおり、一例では「中国のじゃんけんを講師が紹介した時に、中国にルーツをもつ子が得意そうに前で一緒にじゃんけんをした」という話も聞きました。そのように身近なところで相互理解のきっかけになる部分もあります。お互いに理解し尊重できる関係性を作るきっかけを作っていきたいです。(大石 貴之)

## 今後の予定

### ◆今後の予定

#### ■ふたば国際プラザ

○第27回ヒューマン・シネマ上映会

2022年1月28日(金) 18:00~20:00

ギルバート・グレイブ GILBERT GRAPE

(1983年 アメリカ映画 117分 字幕版)

○お正月体験 ~たこあげをしてみよう~

2022年1月10日(月・祝) 13:00-15:00

○地域の多様性の歴史を学び理解を深めるセミナー

第三回「中国帰国者を取り巻く経緯と現状」

2022年1月30日(日) 14:00-16:00

NHK 歳末たすけあい  
助成事業

左記の助成を受けて

「在日マイノリティ高齢者のための遠距離送迎および外出支援」を行っています。